

SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS

DECEMBER
2025

12

昭和医科大学新聞 通巻 第628号
(偶数月発行)

横浜看護専門学校 開校予定 (認可手続中)

学生からの寄稿 海外研修報告



昭和医科大学
SHOWA Medical University

2027年4月、横浜に

「昭和医科大学 附属
横浜看護専門 学校」開校予定

(認可手続中)

2027年4月、横浜に本学2校目となる「昭和医科大学附属横浜看護専門学校」を開校します。本学の建学の精神である「至誠一貫」を胸に、患者さんの心に寄り添い、社会に貢献できる次世代の医療人育成が、横浜の地で始まります。



学校名	昭和医科大学附属横浜看護専門学校
所在地	神奈川県横浜市緑区十日市場町1865（横浜キャンパス内）
設置者	学校法人 昭和医科大学
設置年月	2027（令和9）年4月1日
定員	1学年80名（総定員240名）
修業年限	3年

※認可手続中であり、内容が変更となる可能性があります。

医系総合大学の叡智を結集！緑豊かな教育環境

本学は「チーム医療教育」に力を入れています。これは、
 実際の医療の現場を想定して、職種も学年も異なる学生が
 チームで課題解決に取り組む演習や実習です。

この学びから、医療現場での看護師の役割が理解できるようになり、医師や薬剤師など異なる医療職との連携能力が身につきます。そして、専門や学年に捉われない医療の資格を目指すたくさんの仲間ができます。

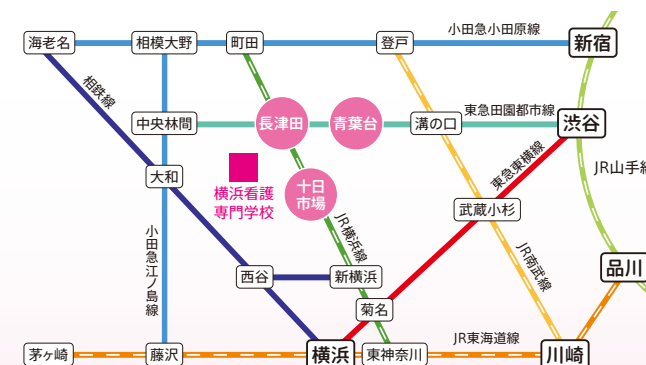
卒業後、附属病院で一緒に働く仲間でもあります！

実習は本学の8つの附属病院を中心に行います。それぞれの病院には特徴があるため、様々な医療現場のシチュエーションを経験することができます。

最先端の設備と高度な医療に触れながら、経験豊富な実習指導教員の指導のもと、基礎と実践力が身につきます。医療現場の最前線で活躍している先輩看護師を間近に見ることで、「こんな看護師になりたい!」というモデルナースに出会うことができます!

多くの卒業生が実習を通してあこがれた先輩看護師のいる病院や、病棟の雰囲気にも馴染んでいる附属病院を選択して就職しています。親しみのある病院で、**共に学んだ仲間と一緒に看護師としてのキャリアをスタートできる**安心感は、大学附属の専門学校ならではのメリットです！

負担の少ない学費と充実した奨学金制度で皆さんの学びをしっかりとサポートします！ また、キャンパスに隣接するところに、寮を完備しています。安心して学修に打ち込める環境が、ここに 있습니다。関東圏のみならず本校への入学を希望する学生をサポートします。



〒226-8555 神奈川県横浜市緑区十日市場町1865

- 長津田駅(東急田園都市線・JR横浜線)よりスクールバス運行中
- 青葉台駅(東急田園都市線)より「若葉台中央行き」バスにて
「中山谷(なかざんや)」停留所下車徒歩5分
- 十日市場駅(JR横浜線)より「若葉台中央行き」バスにて
「中山谷(なかざんや)」停留所下車徒歩5分



Press Release

ロコモがメタボを引き寄せる？ 働く世代に潜む予兆 企業検診データが示す定年延長時代の健康戦略



昭和医科大学の吉本隆彦准教授らは、自動車製造業の労働者4,301人を対象に6年間追跡調査を行い、ロコモティブシンドローム（ロコモ）が将来のメタボリックシンドローム（メタボ）発症リスクを1.34倍高めることを明らかにした。一方、メタボはロコモの発症と有意な関連を示さず、足腰の健康維持がメタボ予防の出発点となる可能性が示唆された。特に片脚立ち上がりテストやツーステップテストで運動機能の低下が見られる場合、メタボ発症リスクはさらに高くなることが判明した。本研究は、日産自動車の定期健診データを用いたもので、COVID-19流行前のデータでも分析し、結果の頑健性を確認している。この結果は、企業の健康経営や特定保健指導において、ロコモチェックと運動介入を推進する科学的根拠を提供し、厚生労働省の労働災害防止計画が掲げる「労働者の身体機能の維持改善」の方向性とも整合する社会的意義を持つ。高齢化と定年延長が進む中、働く世代において

もロコモ対策をメタボ予防の先行戦略と位置づけ、運動機能の評価と介入を普及させることが求められる。

リリース時タイトル／足腰の衰えがメタボを招く？ 働く世代を6年間追跡し判明したロコモとメタボの意外な関係

掲載誌／*Preventive Medicine* 198: 108334, 2025

論文名／Bidirectional association between locomotive syndrome and metabolic syndrome: A 6-year longitudinal study in Japanese workers

著者／Takahiko Yoshimoto, Tomohiro Shinozaki, Ko Matsudaira

掲載日／2025年6月20日

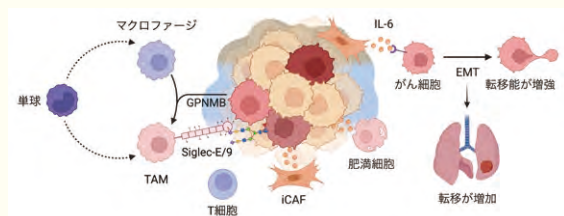
DOI／10.1016/j.ypmed.2025.108334

本件に関する問い合わせ先／昭和医科大学 医学部衛生学公衆衛生学講座衛生学公衆衛生学部門 准教授 吉本 隆彦 TEL：03-3784-8134 E-mail：yoshimotot@med.showa-u.ac.jp

免疫療法の新たな標的 GPNMB-Siglec-9軸に注目 トリプルネガティブ乳がん転移の機構を解明



昭和医科大学の川西邦夫教授らの研究グループは、予後不良のトリプルネガティブ乳がん（TNBC）の転移を促進する新たな免疫抑制機構を解明した。本研究では、腫瘍細胞に高発現する糖タンパク質GPNMBが、特異的なシアル酸修飾を介してマクロファージ上の免疫チェックポイント分子Siglec-9に選択的に結合し、免疫抑制性の腫瘍随伴マクロファージ（TAM）への分化を誘導することが示された。さらに、腫瘍のGPNMBはマクロファージにおけるGPNMB発現を誘導し、免疫抑制性TAMへの分化を促す自己増幅ループを形成することが確認された。この機構により、腫瘍内には炎症性と免疫抑制性の両極性を持つTAMネットワークが構築される。マウスモデルを用いた解析では、ヒトSiglec-9の機能的相同分子であるSiglec-Eと、T細胞の働きを抑制する免疫チェックポイント分子PD-1を同時に阻害することで、IL-6を介した上皮間葉転換（EMT）および肺転移が有意に抑制された。さらに、免疫抑制性TAMおよびT細胞のクラスター占有率が低下し、CD8⁺T細胞集団の拡大も観察された。これらの結果は、GPNMB—Siglec-9軸がTNBCの免疫抑制と転移促進の中核を担う経路のひとつであり、免疫療法の新たな標的となる可能性を示唆している。



リリース時タイトル／【昭和医科大学・筑波大学】乳がん転移を導く「がん細胞-免疫細胞間シグナル」を解明

掲載誌／*Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* (PNAS)

論文名／Tumor-expressed GPNMB orchestrates Siglec-9⁺ TAM polarization and EMT to promote metastasis in triple-negative breast cancer

著者／Thuy Linh Dang Cao, Kunio Kawanishi, Sachie Hashimoto, Kowit Hengphasatporn4, Chiaki Nagai-Okatani, Takaharu Kimura, Mohammed Abdelaziz, Rie Shiratani, Thanasis Poullikkas, Nuriza Ulul Azmi, Masaki Baba, Yukari Okita, Yukihide Watanabe, Hiroko Bando, Satoshi Yamazaki, Yasuteru Shigeta, Atsushi Kuno, and Mitsuyasu Kato

掲載日／2025年9月1日

DOI／10.1073/pnas.2503081122

本件に関する問い合わせ先／昭和医科大学 医学部 解剖学講座 顕微解剖学部門 教授（兼 筑波大学 医学医療系 非常勤研究員）川西 邦夫 TEL：029-853-394 E-mail：kukawanishi@md.tsukuba.ac.jp

昭和医科大学では最新の研究結果等を外部（マスメディア）に発信しています。

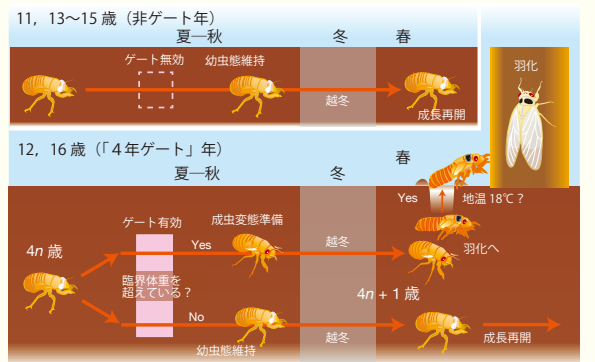
ここでは、プレスリリースとして発信した記事を紹介します。

※掲載内容はリリース時の内容となります。なお、今号から誌面では省略版の掲載に変更しており、全文はQRコードからご案内しているWEBページにてご覧いただけます。

素数ゼミは何故17年と13年で羽化するのか？ “4年ゲート仮説”を検証し羽化判定の謎に迫る



昭和医科大学の柿嶋聡講師と京都大学の曾田貞滋名誉教授らによる共同研究チームは、アメリカ東部に生息する周期ゼミ（素数ゼミ）の生活史制御に関する「4年ゲート仮説」を検証した。周期ゼミは13年または17年という素数年の幼虫期を持ち、地域ごとに複数種が同調して羽化することで周期的な大発生が起きることが知られている。本研究では、周期ゼミが4の倍数年ごとに臨界体重を超えているかを判定し、羽化の可否を決定するという仮説を支持する証拠を得た。周期ゼミは羽化前年の秋に眼が赤くなることが知られていたが、実際に17年ゼミでは羽化前年にあたる16歳の幼虫の97%が赤眼であった。さらに、その4年前にあたる12歳の幼虫でも、体重の重い一部の個体が赤眼となっており、同じ場所では翌年に早期羽化が確認された。遺伝子発現解析では、赤眼幼虫において光応答関連遺伝子の発現が顕著であり、羽化前に視覚が獲得されることが示唆された。また、脱皮関連遺伝子は越冬後の春に発現が増加しており、羽化が地表温度の閾値により同期的に起こる仕組みを支持する結果であった。これらの成果は、周期ゼミが年齢と体重の両方を基準に羽化を制御していることを示し、長期にわたる生活史の時間管理メカニズムの理解に貢献するものである。



リリース時タイトル／昭和医科大学などの共同研究チームが周期ゼミ（素数ゼミ）の「4年ゲート仮説」を検証 —17年ゼミはどうやって羽化のタイミングを決めているのか？

論文名／When and how do 17-year periodical cicada nymphs decide to emerge? A field test of the 4-year-gate hypothesis

著者／Namiho Saito, Satoshi Yamamoto, Satoshi Kakishima, Yutaka Okuzaki, Andrew Rasmussen, Diler Haji, Shota Nomura, Hiroyuki Tanaka, Takehiko Itoh, Jin Yoshimura, Chris Simon, John Cooley, Gene Kritsky, and Teiji Sota

掲載日／2025年8月27日

DOI／10.1098/rspb.2025.1306

本件に関する問い合わせ先／昭和医科大学 富士山麓自然・生物研究所 講師 柿嶋 聡 E-mail：kakishima@cas.showa-u.ac.jp

地域共生を目指し川崎市と協定を締結 2027年開設予定の鷺沼キャンパスを拠点に



学校法人昭和医科大学は2025年9月16日、川崎市と「地域と共生するキャンパスづくり」をコンセプトとした連携・協力に関する協定を締結した。この協定は、2027年4月に川崎市宮前区鷺沼四丁目に開設予定の「鷺沼キャンパス」を拠点に、人的・知的・地域資源を活用し、地域課題の解決や地域の魅力向上に取り組むことを目的とする。

鷺沼キャンパスでは、医学部・歯学部・薬学部の2～3年次および一部4年次、保健医療学部の2～4年次、助産学専攻科の学生、約2,000人が学ぶ予定である。

協定には以下の内容が盛り込まれている。

- 医療系大学の特性を生かした市民の多様な学びを支援する生涯学習及び健康増進の推進に関すること。
- 生物多様性に富んだ屋外空間等を生かした地域の日常的な憩い・交流の場や市民の利便性向上を図る大学施設の市民

利用に関すること。

- 学びと地域とのつながりを育む等、地域活動との連携による地域社会の振興に関すること。
- 災害時における地域と連携した大学施設利用等に関すること。
- その他、本協定の目的の達成に向けて、相互の連携・協力に資する事業を行う。

昭和医科大学と川崎市は、これらの取り組みを通じて、持続可能な地域共生モデルの構築を目指す。

リリース時タイトル／学校法人昭和医科大学が川崎市と連携・協力に関する協定を締結

本件に関する問い合わせ先／学校法人 昭和医科大学 総務部企画課 TEL：03-3784-8387 E-mail：kikaku@ofc.showa-u.ac.jp

「海外研修を通して得た友情 —世界の大学生と共に医療を学ぶ—」

最先端の医療をその目で確かめる。地域医療の実践に参加する。異なる文化を持つ仲間と語り合う。慣れない環境に身を置き、自分自身の力で課題を乗り越える——。

書物だけでは決して得られない、こうした体験の一つひとつが、医療人として、そして一人の人間として大きく成長する糧となる。

本学は「国際的な視野を持った医療人」の育成を掲げ、多彩な海外研修プログラムを実施している。今年もまた、36名の学生たちが世界各地へ飛び立ち、忘れられない夏を過ごした。

異国の地で何を感じ、何を学んだのか。言葉の壁、文化の違い、そして日本では得られなかった新たな発見。その貴重な体験と成長の記録を、代表10名に語ってもらった。

2025年度 夏期海外研修実績

ポートランド州立大学 (USA)
(薬学部3年・保健医療学部3～4年・看護専門学校3年:7名)

チュラロンコン大学 (タイ)
(歯学部3～4年:4名)

ワイルダック大学 (タイ)
(保健医療学部2～4年:8名)

オックスフォード大学 (英国)
(全学部1年:17名)

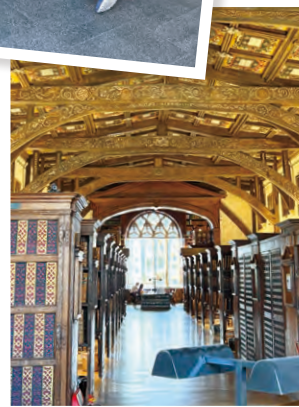
🇬🇧 Oxford Univ., UK

1年次選択科目
初年次スタディアブロードプログラム
オックスフォード大学 ハートフォードカレッジ (英国)



「多角的に見る」ということ
医学部1年 川嶋 乃愛

私は、博物館研修で出された「偏見や差別を見つける」という課題に最も苦戦しました。展示物の美しさに見入ってしまい、そうした視点を持つ余裕がなかったのです。そんな中、現地の先生から「アジア人の石像はありましたか」と問われ、ハッとしました。思い返すと、展示されていたのはすべて西洋人の像でした。これをすぐに差別と断定するのは難しいですが、この問いかけを通じて、無意識に展示をそのまま受け入れていた自分に気づき、物事を多角的に見ることの難しさと重要性を改めて学びました。



充実したオックスフォード大学研修
歯学部1年 岩渕 智世

2週間という短い期間ではありましたが、先生方や現地のRA（レジデンシャル・アドバイザー）の学生のサポートのおかげで毎日濃い、充実した日々を過ごせました。オックスフォードでの授業では、日本では経験したことのない時間割や授業の合間のティータイム、また授業内で学生が自由に意見を出していける環境に驚きました。また、自分よりも英語でのコミュニケーションや人前でのプレゼンに慣れていた台湾の学生達との交流はとても良い刺激になりました。彼らと共に切磋琢磨し合えたことで、自分の中にあった人前に立つことや英語を使って何かを表現することへの苦手意識を払拭できたと思います。



とっても楽しい研修
薬学部1年 小倉 琉聖



この研修の魅力は、台湾の学生たちとの交流や、イギリスの歴史ある観光地を訪れたりすることです。リバークルーズやカラオケやスケートなどのアクティビティができるため、とても充実した2週間を過ごすことができました。また、台湾の学生と寮のラウンジで話すことは互いのことを知るだけでなく、英会話を向上させてくれることにもつながりました。イギリスの文化や食事、風景や建物を楽しむことができ、とても貴重な経験となりました。



後輩へのアドバイス
保健医療学部リハビリテーション学科
理学療法専攻1年 山浦 美悠

私には初めての海外渡航であり、保健医療学部からの履修者が1人だったので、本当に不安な気持ちでこのプログラムに参加しました。しかし、本場の英語を学び、観光や美味しいご飯を楽しみながら他国からきた学生とも交流することができ、誰も知らなかったからこそ多くの人と仲の良い友達となることができました。また、オックスフォードの治安が良かったので、安心して現地での生活を楽しむことができました。後輩のみなさんにも少しでも興味を持ったら絶対に参加して欲しいと思います。



ポートランド州立大学サマープログラム(USA)



国を超えた交流の素晴らしさ
薬学部3年 衣澤 美玖

私は、今回の研修に参加して、英語を積極的に使い、間違いを恐れずに話すことの大切さを学びました。現地の看護学生との交流では、相手を知ろうとする気持ちを強く持ったことで、完璧な英語でなくても自然と会話が弾み、交流を深めることができました。英語を通して国を超えて心を通わせられる喜びを知り、今後も学びを重ね、多くの人と関わっていきたいと思いました。



後輩に伝えたい魅力

看護専門学校2年 関口 晴日



私は以前から日本とは異なる文化での医療に興味があり、今回のプログラムに参加しました。海外で1週間以上研修することは初めての経験で、不安な気持ちが大きかったですが、現地では、初めて見ることや日本との医療の違いを学ぶことができ、とても刺激的な日々でした。休日は公共交通機関を利用して仲間と一緒に観光したので、メンバーとの絆も深まったほか、現地での生活を体験する良い機会となりました。少しでも興味があるなら挑戦することをお勧めします！

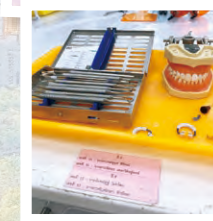


Building Relationships for International Development, Growth, and Exchange program
チュラロンコン大学(タイ)



歯科と英語の魅力
歯学部4年 高本 英恵

この夏私は、タイのバンコク市街地に位置するチュラロンコン大学の研修プログラムに参加させていただきました。初めて出会う6カ国の歯学部生とコミュニケーションをとり講義・実習に参加しましたが、各国の歯学生の歯科に対するモチベーション、英語スピーキング能力の高さに驚きました。今回の研修によって、歯学部での勉強や実習に加え、英語力もより一層高めたいと思いました。これからさまざまなことに挑戦していきたいです。



後輩たちに知ってもらいたい研修の魅力

歯学部3年 岩田 隆



本プログラムには、アジア各国と米国から学生が参加しており、国際的な交流を深めることができました。お互いの国の歯学教育や医療制度、将来注目される研究分野について語り合う中で、幅広い視点を得られました。観光と一緒に楽しんだ時間も忘れられない思い出です。多くを学び、刺激を受けた充実した研修となりました。



保健医療学部選択科目 アドバンススタジオブロードプログラム
Global Multiprofessional and Cultural Camp2025
ワライラック大学(タイ)

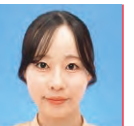


異文化の中で育まれた看護の視野と姿勢
保健医療学部看護学科4年 中村 圭佑

タイでの10日間の研修を通して、異なる医療制度や文化の中で行われる看護を学び、多様な価値観を尊重する姿勢を身につけることができました。現地の看護師や学生との交流を通して、言語や文化の壁を越えたコミュニケーションの大切さを実感し、自ら積極的に関わろうとする姿勢が身につきました。今回の経験を通して国際的な視野を広げ、看護師として柔軟に対応できる力や異文化理解を深める力が向上したと感じています。



文化の違いから学んだ思いやり
保健医療学部看護学科3年 加藤 杏菜



今回の研修を通して、タイの人々の思いやりに深く触れることができました。体調を崩したときや言葉が通じにくい場面でも、先生方や学生がすぐに助けてくださり、その温かさに感動しました。日本では個人の自立が重視されますが、タイでは地域や家族の支え合いが強く、それが医療にも反映されていると感じました。文化の違いを知ることで、自分の国を新しい視点から見直す貴重な機会となりました。





旗の台キャンパス 旗ヶ岡祭・いぶき祭

10月11日、12日の2日間にわたり、第65回旗ヶ岡祭（大学祭）を旗の台キャンパスで開催した。

今年度のテーマである『暁光』は、夜明けに差し込む光を意味し、新たな校名のもとで歩みを始めた本学にちなんで名付けられた。

開会式では、小口勝司理事長、上條由美学長による挨拶の後、スチューデント・インストラクター（SI）の表彰や、応援指導部によるパフォーマンスが行われた。

あいにくの天候ではあったが、会場は参加者で賑わい、盛り上がりを見せた。

このほか、お笑いライブや音楽ステージ、学生たちによる縁日や模擬店など、さまざまな企画やイベントが催され、地域の方や高校生をはじめ多くの方にご来場いただき、盛況のうちに終了した。

また、附属の看護専門学校では第51回いぶき祭（学校祭）を開催し、ベッドメイキング体験のほか、高齢者体験や妊婦体験など、看護の知識や技術を活かした企画が実施された。

2日間を通じて多くの賑わいを見せ、新たな伝統への一歩となるイベントとなった。



旗ヶ岡祭を終えて

第65回旗ヶ岡祭実行委員会 実行委員長
岡田 真歩さん（薬学部4年）

10月11日・12日の2日間にわたり、第65回旗ヶ岡祭が開催されました。今年度は『暁光』というテーマのもと、新たな校名と共に新しい一歩を踏み出そうという思いで活動を行いました。

大学関係者や地域の皆さまの支えのもと、これまで以上に良い学園祭を目指して実行委員全体で力を尽くしました。意見を交わしながら協力を重ねる中で強い絆も生まれ、充実した日々を過ごすことができました。

当日はあいにくの天候となりましたが、大変多くの方にご来場いただき、笑顔溢れる2日間となりました。来場者の方々の笑顔を拝見し、これまでの努力が実を結び、新たなスタートにふさわしい学園祭となったことを実感しました。

最後に、旗ヶ岡祭にご協力いただいたすべての方に心より感謝申し上げます。



上條記念館 ホームカミングデー

10月11日、第18回昭和医科大学ホームカミングデーを上條記念館で開催した。

開式にあたり、昭和医科大学管弦楽団の演奏が行われ、華やかなスタートとなった。

今年の招待学年は、ゴールデン記念（卒業後50年）にあたる医学部43回生、薬学部6回生、シルバー記念（卒業後25年）にあたる医学部68回生、歯学部18回生、薬学部31回生、そしてブロンズ記念（卒業後15年）にあたる保健医療学部10回生の方々と、215名が参加した。

式典では、上條由美学長による各招待学年代表者への記念楯贈呈のほか、招待学年代表者による挨拶や昭和医科大学宣言、校歌斉唱が行われた。

続いての懇親会では参加者が旧交を温め、盛会となった。



緑風祭

10月25日・26日の2日間にわたり、横浜キャンパスで第26回緑風祭を開催した。

今年のテーマは『緑風爛漫』。

この言葉には、「ありのままに輝き現れるさま、光り輝くさま」という意味があり、緑風祭に関わるすべての人の思いや努力が、最後まで明るく華やかに咲き誇るようにという願いが込められている。

保健医療学部学生たちは、2027年4月から鷺沼キャンパスで学ぶことになる。慣れ親しんだ横浜キャンパスで開催できるのも残りわずかのため、学生たちは例年以上の熱意をもって、準備に励んでいた。

開会式では、鈴木久義学部長による挨拶の後、スチューデント・インストラクター（SI）の表彰が行われた。

模擬店やお笑いライブ、MUSIC LIVEなど、来場者を楽しませる多彩なプログラムが展開され、あいにくの天候ではあったが、地域の方や高校生をはじめ多くの方にご来場いただき、盛況のうちに終了した。



緑風祭を終えて

第26回緑風祭実行委員会 実行委員長
木下綾菜さん
(保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻2年)

第26回緑風祭が10月25日・26日に行われました。あいにくの雨天開催となりましたが、たくさんの方の協力のもと成功させることができました。準備の段階では、事務課の方々や先生方がたくさん動いてくださり、実行委員や出店する方々も時間のない中準備を進めてくれました。

当日は学生だけでなく近隣の方や高校生にもたくさんご来場いただきました。特に芸人ライブでは今、勢いのある芸人さんに来ていただいたこともあり一番盛り上がりしていました。お客さんの笑顔がたくさん見られて私自身もとてもうれしかったです。

最後に、ご来場して下さった皆様、ご協力いただいたすべての方に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました！

News & Topics

2025.8.1～3 / 8.17～18

富士吉田キャンパス | 医学部 | 歯学部 | 薬学部 | 保健医療学部 | 富士吉田教育部

教育者のためのワークショップを開催

8月1日～3日、8月17日・18日、教育の質の向上と教育職員の教育力強化を目的に、「教育者のためのワークショップ」を富士吉田キャンパスで開催した。

8月1日～3日はビギナーズ（初心者）、8月17日・18日はアドバンスト（上級者）を実施し、計91名の教育職員が参加した。

両コースとも、小口勝司理事長による大学の中長期計画や組織運営に関する講演が行われ、教育の方向性について理解を深めた。

ビギナーズコースでは教育理念の探究を通じて自身の教育観を見つめ直し、アドバンストコースでは4学部合同や学部毎のグ

ループに分かれ、今後のカリキュラムや学部連携教育について活発な議論が交わされた。

ビギナーズコース、アドバンストコースとも、チーム医療に必要な学部間の連携や多職種交流の重要性を再認識する有意義な機会となった。



ディスカッションの様子

2025.8.22

連携・貢献 | 富士吉田キャンパス

富士吉田キャンパス見学会

昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校対象

8月22日、本学の特別協定校である昭和女子大学附属昭和高等学校の生徒と保護者を対象に、富士吉田キャンパスの施設見学会を実施した。

この施設見学会は本学への進学に興味のある生徒と保護者の方々が参加され、本学の特色の1つである1年次全寮制教育への理解を深める目的で実施された。

当日都内は真夏日だったが、富士吉田市内は25度前後と清涼とした気候の中、学生寮見学や体験実習が行われた。

参加した生徒は入学後に実際に生活することになる寮につい

て、とても関心が高く、沢山の質問を交えながら見学し、実際に提供している昼食も体験した。

体験実習では、血圧測定や気道異物除去、骨の模型を使った骨学実習など専門的な学修を前に緊張した面持ちながら真剣に取り組んでいた。

今後も両校は様々な相互交流を通じて、高大連携を強めていく。



体験実習：気道異物除去

2025.9.27～28

旗の台キャンパス | 地域・一般

旗の台町会の祭禮に今年も参加

学生たちも神輿を担ぎ練り歩く

9月27日・28日の両日、旗の台一丁目町会の祭禮が開催され、本学から小川良雄総務担当理事、木内祐二看護専門学校長、相良博典昭和医科大学病院長をはじめ、多くの学生や職員が参加した。

神輿を担いだ学生たちは、大きな掛け声とともに町会の皆さんと旗の台キャンパス周囲の町内を練り歩いた。

この祭禮は、荏原町駅近くにある旗ヶ岡八幡神社で毎年9月の土曜・日曜に行われる例大祭に合わせて行われるもので、神社周辺の町会で一斉に神輿を担ぎ地域の安全を祈願している。



神輿を担いだ学生たち

富士の鎮守を祈る吉田の火祭りに 今年も大灯明を奉納

8月26日、日本三奇祭の一つ「吉田の火祭り（鎮火祭）」が山梨県富士吉田市で開催され、今年も昭和医科大学富士吉田校舎として大松明を奉納した。

この祭りは火を焚くことで富士山の噴火を鎮める江戸時代からの伝統行事で、北口本宮富士浅間神社とその摂社である諏訪神社の祭として、毎年8月26・27日に開催されている。

今年も多数の参加者が祭礼を楽しむ様子が見られ、大学関係者が見守る中、上條由美学長の手によって昭和医科大学富士吉

田校舎の名が入った大松明に火が灯された。

午後6時半過ぎより、北口本宮浅間神社から約2kmにわたり、街道沿いに立てられた110

本の大松明に火が次々と灯され、高さ3mの大松明が赤々と燃え上がり、街は幻想的な雰囲気包まれた。



大松明に火を灯す上條由美学長

夏の特別イベントでミクロの世界を大冒険 電子顕微鏡サマースクール

8月30日・31日、電子顕微鏡室が主催する夏の特別イベント「子どもと大人の電子顕微鏡サマースクール ―見えない世界を家族と見る夏 昭和医科大学から始まるミクロの冒険―」を旗の台キャンパスにて開催した。小学3年生から中学生まで、好奇心いっぱいの子どもたち29名が集まり、目に見えない世界の不思議に触れる2日間となった。

初日の30日には、久光正特任教授から「ミクロの世界に触れることで、動物や植物、ほかにも色々なものが同じような部品でできていると気が付くはず。そうすると世界が柔らかく見えるようになります」とお話があった。

参加者は、電子顕微鏡によって観察できる世界について、4つのパートに分かれて楽しく学んだ。

SEM（走査型電子顕微鏡）を使った観察では、超高倍率のミクロの世界をリアルに体験し、1mmの1/1000の大きさであるμm（マイクロメートル）の世界に触れて、子どもたちからは驚きの声が上がっていた。位相差顕微鏡の体験では、自分の歯の汚れから採取したサンプルを観察し、微生物がうごめく様子を見て「生きて

る……!」と、顕微鏡の中の生命に釘付けになる場面もあった。バーチャルスライド顕微鏡の体験では、「バーチャルスライド」と呼ばれるデジタル顕微鏡画像を自由自在に拡大して、腎臓のはたらきや骨の形成方法について学んだ。実体顕微鏡を使った体験では、紙幣に書かれた極小の文字を見たり、持参した観察したいものを実際に観察し、「葉っぱには、こんなに細かい模様があったんだ!」と新たな発見をしていた。

最後は、高木孝士室長より一人ひとりに修了証が手渡された。なお、2026年は7月頃実施予定である。



実体顕微鏡体験

絞扼性イレウス術中腸管血流を可視化 ICG蛍光法の有用性を示し優秀演題賞

松根佑典助教（医学部外科学講座消化器一般外科学部門）が第50回日本外科系連合学会学術集会（5月21日～23日：フェニックス・プラザ福井）の専攻医セッションで『ICG蛍光法による術中血流評価が有用であった絞扼性イレウスの1例』というテーマで発表し、優秀演題賞を受賞した。

日本外科系連合学会は一般外科をはじめ泌尿器科や耳鼻咽喉科等を含めた日本最大級の外科系学会のひとつ。本会はその定期学術集会として開催された。



左から田代良彦講師、松根佑典助教、青木武士教授

関連リンク／第50回日本外科系連合学会学術集会 <https://www.congre.co.jp/50jcs2025/overview/outline/index.html>

保健・助産・看護師の現場経験を補完 実習指導者を育成する講習会開講

8月25日、横浜キャンパスにて神奈川県保健師助産師看護師実習指導者講習会・昭和医科大学保健師助産師看護師実習指導者講習会の合同開講式を執り行った。

本講習会は効果的で質の高い実習指導を行える指導者を養成し、看護基礎教育の質の向上を図ることを目的として行っている。

鈴木久義保健医療学部長は「現場経験に理論を加えることで、より深い学びにつながる。教育指導に関する理論を楽しく学んでほしい」と、開講の挨拶を述べた。

続いて、田中晶子教授（保健医療学部看護学科主任）は挨拶で、小説家・高瀬隼子氏のエッセイ『風よけ』に登場する研修指導教員と学生のエピソードを引用して「困難に寄り添い共に考える姿勢が指導者に求められる姿であり、講習会を通して新しい発想・行動に移す力を身に付けてほしい」と述べた。

来賓挨拶では、城所扶美子統括看護部長が「実習指導者としての学びを深める大切な時間。自身の経験を振り返り、指導力を高める学びの場にしてほしい」と述べた。

最後に、受講生56名一人ひとりの名前が紹介され、閉式となった。今後は、8月から12月まで週2回、講義・演習・実習等が行われる予定である。



開講式会場の様子

QOL改善に直結する靱帯再建術後の 予後予測因子を明らかにする研究

奥茂敬恭講師（医学部生理学講座生体制御学部門）が、第53回日本関節病学会（7月4日～5日：ホテルグランヴィア京都）において、演題名『膝前十字靱帯再建術後に発症する膝蓋大腿関節軟骨変性の予後予測因子に関する後方視的検討』で、全一般演題の中から3名に授与される学術集会会長賞を受賞した。

日本関節病学会は、関節リウマチや変形性関節症などの関節疾患に対する基礎研究から臨床・手術治療に至るまでの幅広い領域を対象とする全国規模の専門学会であり、学術集会を通じて医療の質の向上と患者のQOL改善を目指している。



左から、奥茂敬恭講師、佐藤敦講師

関連リンク／第53回日本関節病学会 <https://site.convention.co.jp/jsjd2025/greeting/>

顎顔面骨折治療の新たな可能性を拓く 日本3Dプリンティング矯正歯科学会で受賞

芳賀秀郷准教授（歯学部歯科矯正学講座）が、日本3Dプリンティング矯正歯科学会第4回学術大会（7月20日～21日：野村カンファレンスプラザ日本橋）において、学術ポスター発表演題名『顎顔面骨折への3Dプリンティングの応用ー矯正歯科臨床とスポーツ歯科医学の融合ー』にて最優秀賞を受賞した。

また、併催された3D Printing Idea Awards 2025にてグローバルエイト賞を受賞した。

日本3Dプリンティング矯正歯科学会は、矯正歯科の3Dプリンティングとその関連分野の学理・技術・臨床応用の進歩普及、発展、並びに国民の口腔衛生の向上に寄与することを主な目的としており、今年度は『『3Dプリンティングを活用した最先端の矯正歯科治療』New Cutting-Edge Orthodontic Treatment Using 3D Printing』をテーマに掲げ、開催された。



芳賀秀郷准教授

関連リンク／日本3Dプリンティング矯正歯科学会 <https://3dp-orthod.jp/>

日本毒性学会学術年会で田邊賞 優れた原著論文に贈られる学会賞を受賞

光本（貝崎）明日香准教授（薬学部基礎医療薬学講座毒物学部門）が第52回日本毒性学会学術年会（7月2日～4日：沖縄コンベンションセンター）において、発表論文『Paternal methamphetamine exposure differentially affects first and second generations in mice』で田邊賞を受賞した。

田邊賞は、日本毒性学会の機関誌である「Journal of Toxicological Sciences」に優れた研究または将来性のある研究の原著論文を発表した学会会員に贈られる。



左から、中野僚太助教、宗友咲子助教、光本明日香准教授、沼澤聡教授

関連リンク／第52回日本毒性学会学術年会 <https://www.jsot2025.jp/>

日本コミュニティファーマシー協会フォーラムにて チーム医療による成果がアワードに輝く

赤川圭子講師（薬学部社会健康薬学講座社会薬学部門）が、第12回コミュニティファーマシーフォーラム（7月27日：秋葉原コンベンションホール）において、ポスター発表演題名「超高齢社会における抗コリン薬の適正使用に向けた処方介入への取組み～2030年を見据えた外来患者のポリファーマシー対策～」で、コミュニティファーマシーフォーラムアワードを受賞した。

受賞演題は、赤川講師が所属している昭和医科大学病院・東病院ポリファーマシーチームが取り組む「ポリファーマシー対策」の成果を研究としてまとめたものである（薬学部4年 村田悠人さんの『薬学研究入門』における研究課題）。

本研究では、抗コリン作用薬の投与が禁忌または慎重投与とされる「前立腺肥大」「認知症」「重症筋無力症」の疾患を有し、かつ抗コリン作用を有する薬が処方されている患者について、処方医に提案書を配布した。

その結果、2020年10月～2025年3月までに延べ554件の提案書を配布し、実際に45剤の減薬・変更が行われたことが報告された。

本研究は、ポリファーマシーの可能性が高い処方を一定の基準

で抽出することにより、医療の質の向上に寄与するものである。薬学部・大学病院・東病院が連携し、医療チームの一員として外来処方に対する薬学的支援を実践した点が、先進的な取組みとして高く評価された。



左から、百賢二准教授、嶋村弘史准教授、赤川圭子講師、嶋村久美子先生、村田悠斗さん

「昭和医科大学病院・東病院 ポリファーマシーチーム」メンバー

嶋村弘史（大学病院薬剤部長、薬学部病院薬剤学講座 准教授）

百賢二（統括薬剤部、薬学部病院薬剤学講座 准教授）

嶋村久美子（東病院 薬剤師）

光本英雄（鳥山病院事務課、元大学病院事務課）

佐々木忠徳（元統括薬剤部長）

赤川圭子（薬学部社会健康薬学講座社会薬学部門 講師）

関連リンク／第12回コミュニティファーマシーフォーラム <https://jacp.webside/2025/04/24/%e2%96%a0%e7%ac%ac12%e5%9b%9e%e3%>

日本小児臨床アレルギー学会学術大会 最優秀演題賞

演題名 食物アレルギー児の保護者の新規レジリエンス尺度の開発

受賞者 関沙和助教（医学部小児科学講座小児内科学部門）

日程：場所 2025年6月14日～15日：杏林大学三鷹キャンパス



左から関沙和助教、今井孝成教授

日本看護協会長表彰を受賞

受賞理由 長年活動してきた包括的性教育である「生命と性の健康教育」と、少子化の現在、社会に求められている「プレコンセプションケア」および、看護協会の学会の運営委員として、企画・運営を通して、看護の質の向上に寄与したため

受賞者 上田邦枝教授（助産学専攻科）

日程：場所 2025年6月11日：幕張メッセ



上田邦枝教授

日本義歯ケア学会学術大会 優秀奨励賞

論文名 口腔乾燥症用義歯安定剤が実験用口蓋床の維持力に与える影響

受賞者 山根邦仁助教（歯学部口腔健康管理学講座口腔機能管理学部門）

日程：場所 2025年1月25日～26日：鶴見大学記念館



左から古屋純一教授、山根邦仁助教

日本呼吸ケア・リハビリテーション学会関東支部学術集会 優秀演題賞

演題名 間欠的低酸素曝露マウスにおける認知機能障害と海馬遺伝子発現変化：睡眠時無呼吸症候群の病態メカニズムと治療標的の探索

受賞者 内田有希講師（医学部生理学講座生体調節機能学部門）

日程：場所 2025年7月5日：Gメッセ群馬



左から内田有希講師、泉崎雅彦教授、見代健太助教

SMBC

ご存じですか？
スマホの口座
Olive
Fit For Your Cashless Living

三井住友銀行

日本調剤

全国に広がる、日本調剤のネットワーク。

日本調剤株式会社（本社：東京都千代田区丸の内、東証プライム市場上場）は、全国 47 都道府県で 700 以上の調剤薬局を展開している企業です。

— 生協は学園生活のパートナーです —

UNIV. CO-OP

昭和医科大学生生活協同組合

旗の台：3788-2322（内線）8268 アミ：3785-9729（内線）8369
吉田：0555-23-8505 洗足：3787-4432 横浜：045-985-9624

昭友商事は
皆様をあらゆる面でサポートし、
貢献いたします。

昭和医科大学オリジナル商品の販売
NLローソン・タリーズコーヒータウン運営
各種旅行・イベント手配業務
アウトソーシングサービス ほか

昭友商事株式会社 〒142-0064 品川区旗の台1-8-16

ICG蛍光法とAI技術の統合による、術中リアルタイムナビゲーションの未来

田代良彦講師（医学部外科学講座消化器一般外科学部門）が、The 5th World Congress of the International Laparoscopic Liver Society (ILLS2025)（6月24日～27日：韓国ソウル）で「Best Oral Presentation Award」を受賞した。田代講師は演題名『Laparoscopic liver surgery with the latest real time navigation integrating ICG florescent imaging and state-of-the-art AI technology』を発表し、現在術中リアルタイムナビゲーションとして活用されている光工学技術と、近い将来実現する可能性が高い人工知能 (AI) 技術による術中解剖構造の認識・色分け技術 (color-coding) を統合した低侵襲肝切除の未来像を示したことが高く評価され、同賞に選定された。



左から田代良彦講師、青木武士教授

【田代良彦講師のコメント】

この度は、このような名誉ある賞を頂戴し大変光栄に存じます。今回、術中リアルタイムナビゲーションとして多領域の手術支援に活用されているICG (Indocyanine Green) 蛍光法と、近年急速に進展し、今後の臨床応用が期待される人工知能 (AI) 技術を統合した低侵襲肝切除の可能性について報告いたしました。ICG蛍光法は「見えないものを可視化する」光学技術として注目されており、肝臓外科領域においては2008年、当教室の青木武士教授（医学部外科学講座消化器一般外科学部門）が世界で初めてICGを用いた肝区域同定に成功し、その後、腹腔鏡下およびロボット支援下肝切除へと応用が広がっています。内視鏡手術やロボット支援手術では開腹手術に比して触覚情報が制限されるため、視覚的ナビゲーションの重要性が高く、ICG蛍光観察機器は現在では標準装備とされ、精緻な手術操作において不可欠な技術となっております。

さらに、AIを導入することで肝内脈管構造を色分け (color-

coding) し、外科医の認知能力を向上させることができるのではないかと青木教授の発案に基づき、これまで当教室で蓄積してきた低侵襲手術のデータを用いて解析・開発を進めてまいりました。その成果として、当教室では世界で初めて、AIを用いた低侵襲肝切除中の肝内脈管構造認識モデルを構築し、この度の報告に至りました。

今後は、ICG蛍光法とAI技術の統合により、術中の視認性および解剖構造の認識精度は飛躍的に向上し、より安全かつ確実な手術を実現する術中リアルタイムナビゲーションとして、合併症の軽減や治療成績の向上に寄与することが期待されます。

本発表は、青木教授のご指導のもと教室員の仲間と共に遂行した研究成果であり、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

関連リンク／The 5th World Congress of the International Laparoscopic Liver Society (ILLS2025) <https://ills2025.com/main.asp>

日本顎関節学会総会 学術大会で受賞 2年連続受賞で若手奨励から最高賞へ飛躍

澁坂和大助教（歯学部歯科矯正学講座）が、第38回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会（7月11日～13日：学術総合センター）において、演題名「エストロゲン欠乏と関節円板転位が下顎頭骨変性に及ぼす相乗効果」で、石橋賞（最優秀賞）を受賞した。今回の受賞は、昨年の大会長賞に続き、2年連続の快挙となる。



澁坂和大助教

【澁坂和大助教のコメント】

このたび、日本顎関節学会学術大会において石橋賞（最優秀賞）を賜り、大変光栄に存じます。

本研究は、女性ホルモンの減少や関節円板の位置異常などによって誘発される変形性顎関節症（TMJ-OA）の病態メカニズムの解明を目的とし、マウスモデルを用いて、女性ホルモンの低下と関節円板の転位が下顎頭の病態変性に寄与していることを明らかにした基礎研究です。

本研究の責任著者である矢野文子准教授（統括研究推進センター）をはじめ、中納治久教授（歯学部歯科矯正学講座）、岡田

寛之助教（東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター臨床医工学部門）、坂井信裕教授（歯学部歯学教育学講座）、金英寛助教（京都大学医生物学研究所生命システム研究部門）に深く感謝申し上げます。

関連リンク／歯学研究科4年の澁坂和さんが第37回一般社団法人日本顎関節学会学術大会で若手一般口演賞（大会長賞）を受賞 <https://www.showa-u.ac.jp/news/nid00006677.html>、一般社団法人日本顎関節学会 <https://kokuhoken.net/jstmj/>、第38回日本顎関節学会総会・学術大会 <https://maxi-p.net/jstmj38/>

研究者として歩み出す31名を激励 大学院秋季修了式を挙行

9月26日、令和7年度昭和医科大学大学院秋季修了式を上條記念館で挙行し、医学研究科13名、歯学研究科3名、薬学研究科4名、保健医療学研究科博士前期課程9名、同博士後期課程2名、合わせて31名が研究者としての門出を迎えた。

上條由美学長は告辞において、「皆さんは大学院の課程で新しい知見を得て、論文にまとめて世界に公表することができました。この新たな知見はやがて新たな学術進歩の一助となることを信じています。これからも研究を継続し、未知なる領域に足を踏み込み、探求を重ねてほしいと思います。修了された皆さんの一層の活躍をお祈りしております」と修了生のさらなる飛躍に期待を寄せた。

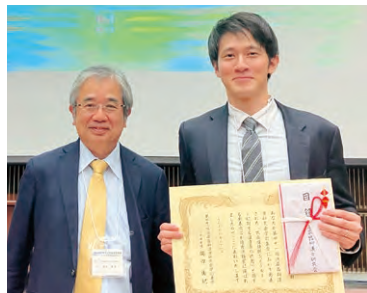
続いて、小口勝司理事長の祝辞、各研究科長からは挨拶とともに今後の研究等のあり方について講話があった。そして、修了生代表による昭和医科大学宣言、校歌斉唱が行われ、閉式となった。



学位記授与

泌尿器科漢方研究会学術集会 優秀演題賞

演題名 出血性膀胱炎モデルラットに対する漢方薬の作用
受賞者 玉岡容さん（医学研究科生体制御学分野4年）
日程・場所 2025年6月28日：横浜シンポジア



左から深貝隆志教授、玉岡容さん

先端歯学スクール2025 優秀賞

演題名 ヒトiPS細胞由来唾液腺オルガノイドを基軸とした口腔組織発生メカニズムの理解
受賞者 中島和希さん（歯学研究科顎顔面口腔外科学分野4年）
日程・場所 2025年8月29日～30日：九州大学歯学部



左から、指導教員の田中準一准教授、中島和希さん

4学部合同入試説明会を開催

10月11日、旗の台キャンパスにて4学部合同入試説明会を開催した。あいにくの雨天にもかかわらず、対面で109組202名、オンラインで116名、あわせて318名の方々にご参加いただいた。全体説明会では、本学の特色や令和8年度入試について説明が行われた。また、個別相談コーナーを設置し、受験勉強や入学後の学生生活、卒業後の進路などについて、入試担当者が相談に応じた。

当日は旗ヶ岡祭（大学祭）を開催しており、キャンパス全体が賑やかな雰囲気に包まれていた。



全体説明会の様子

大学院秋季入学式を挙

10月1日、上條記念館にて令和7年度昭和医科大学大学院秋季入学式を挙

医学研究科20名、歯学研究科4名、薬学研究科3名、保健医療学研究科博士前期課程7名、同博士後期課程1名、合わせて35名が研究者としてのスタートを切った。

上條由美学長は告辞で「大学院においては既知なるものを積み上げるだけでなく、未知なるものを研究し、その成果によって社会の発展に寄与することを期待されています。限られた期間で新しい知見や理論を自らの手で発見し、論文として社会に公表することで、その価値を世界に問うことになります。今後、皆さんの努力

によって素晴らしい研究成果が生まれることを期待しています」と述べた。

続いて、小口勝司理事長の祝辞、各研究科長からは挨拶とともに研究の進め方等につ

いてのアドバイスがあった。そして、昭和医科大学宣言の唱和、校歌斉唱が行われ、閉式となった。入学式終了後は、研究科ごとにオリエンテーションが行われた。



昭和医科大学宣言の様子

リカレントカレッジ入学式・開講式

10月4日、令和7年度秋期昭和医科大学リカレントカレッジ入学式・開講式を上條記念館にて挙

開会に先立ち、本学の包括連携協定校である洗足学園音楽大学のチェリスト・荒庸子教授とピアノコースの川崎智子講師による演奏が行われ、華やかなスタートとなった。

小川良雄プリシパルは式辞で「リカレントカレッジでは、昭和医科大学の特色を生かした医学・医療の講義だけではなく、歴史、映画、法学といった幅広い分野の講義を通して、社会人の知の探究の一助となり、新たな価値の創造、さらには皆さんが文化の発

信拠点となることを目指しています。受講生・講師が一体となり、より良い成果が生まれることを祈っております」と述べた。

また、小口勝司理事長より、自らの研鑽に臨む一同を称え、祝辞が寄せられた。秋期プログラムを受講する145名は、今後多彩なプログラムを受講し、知の探究を深めていく。



式典の様子

学生後援会部会を富士吉田で開催 現地の学生生活を肌で感じるひと時を

9月27日、令和7年度昭和医科大学学生後援会富士吉田秋季部会を富士吉田キャンパスで開催し、1年次学生の保護者339名が出席した。

全体会議では、美島健二学生後援会長、続いて小口勝司理事長、上條由美学長、小川良雄富士吉田教育部長、小倉浩教育委員長による挨拶が行われた。

全体会議終了後、保護者の皆さまと指導担任による面談がSGSセンターで行われ、学生の寮生活の様子や学修の状況について、教育職員から説明があった。

また、保護者の方々には、学生と同じメニューを食堂で体験し

ていただき、足湯に浸かっていただいたり、富士吉田自然教育園を散策していただいたり、富士吉田キャンパスでの学生生活の一部を肌で感じていただいた。

懇親会にも多くの保護者の方にご参加いただき、指導担任を含め参加者間で親睦を深める有意義なひと時となった。



全大会の様子

Database

令和7年度

科学研究費助成事業採択課題一覧

令和7年度の科学研究費助成事業の交付は全体で344件が採択され、総計で4億1,635万円が交付される。

各所属の採択件数・交付額は以下の通り。

■医学研究科：127件 1億5,255万円 ■歯学研究科：98件 1億3,670万円 ■薬学研究科：41件 4,160万円
■保健医療学研究科：35件 2,440万円 ■富士吉田教育部：4件 580万円 ■研究所等：39件 5,530万円

今号では、歯学研究科と薬学研究科の一覧を掲載する。

※所属・役職は令和7年5月交付時点

歯学研究科

研究種目	分野	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
基盤研究(A)	口腔病理学分野	教授	美島 健二	15,300,000	免疫オルガノイドを用いた唾液腺疾患治療標的分子の探索
	口腔生化学分野	教授	塚崎 雅之	5,000,000	組織マクロファージ統合制御機構の解明
	歯科補綴学分野	教授	馬場 一美	5,200,000	睡眠時ブラキシズムの発症経路解明に向けたレジストリ構築と疾患iPSモデルでの検証
基盤研究(B)	口腔病理学分野	准教授	安原 理佳	3,700,000	上皮間葉転換誘導転写因子による細胞可塑性制御の解明
		准教授	田中 準一	5,400,000	ヒトiPS細胞由来唾液腺オルガノイドと大量培養系を用いた新規唾液腺再生医療の構築
	歯学教育学分野	教授	坂井 信裕	1,000,000	歯科教育のためのPC上で医療面接が訓練できるバーチャルCG患者アプリケーションの開発
	口腔解剖学分野	准教授	吉村 健太郎	1,300,000	ケトジェニックダイエットが骨格成長に及ぼす影響の解析
		講師	福島 美和子	1,100,000	新規塩素チャネルTtyh3分子の交感神経性唾液分泌における役割の解明
	口腔生理学分野	教授	中村 史朗	900,000	ミクログリアに着目した摂食機能の生後発達機構の解明
		客員教授	池田 啓子	1,200,000	ATP1A3神経疾患のストレス依存性発症機序の解明
		講師	望月 文子	1,300,000	グリシン受容体を基軸とした神経系と骨組織の組織間クロストークの解明
	口腔微生物学分野	助教	笹 清人	2,000,000	ヒストンラクチル化による骨リモデリング制御機構の解明
		教授	桑田 啓貴	1,100,000	マウスモデルにおける誤嚥性肺炎と常在細菌叢の肺-腸管クロストークの解析
		助教	深町 はるか	1,000,000	口腔・腸管に定着するクレブシエラ菌の環境適応と病原性発現との関連
	歯科薬理学分野	教授	高見 正道	1,100,000	血管による骨代謝および歯周病の制御機構
		准教授	茶谷 昌宏	800,000	in vivo 原始(初期)マクロファージ分化機構の解明
		講師	唐川 亜希子	1,500,000	歯の発生過程における歯根形成のメカニズム解析
基盤研究(C)	歯科理工学分野	教授	柴田 陽	1,000,000	新規解析技術によるデンティンブリッジの機械的特性評価と歯髄保護の革新
		准教授	荻野 玲奈(田中)	500,000	漂白治療の応用による幼若永久歯の抗齲蝕作用
		講師	渡邊 知恵	1,100,000	生体ロバストネスに着目した硬組織老化メカニズムの解明とNMNによる効果検証
		助教	菅森 泰隆	1,600,000	BMP-2に代わる局所の骨造成法の開発と新生骨の機械的特性評価
		教授	弘中 祥司	1,600,000	超音波エコーを用いた口腔機能発達不全の早期発見方法の確立
		准教授	渡邊 賢礼	1,200,000	顎・舌の運動と筋量・筋質から咀嚼機能を評価する
	口腔衛生学分野	講師	伊澤 光	1,100,000	光学印象採得データを用いた新たな個人識別法の開発
		講師	石崎 晶子	2,200,000	学童期の低出生体重児に対する口腔機能支援方法の開発ー口腔機能と筋肉量の関連性ー
		講師	内海 明美	2,000,000	学齢期のDCDに対する口腔機能支援ー口腔感覚異常が咀嚼運動発達に及ぼす影響ー
	歯内治療学分野	講師	浦羽 真太郎	300,000	口腔内スキャナーを用いた歯質切削モニタリングシステムの開発
		教授	山本 松男	1,200,000	加齢育成マウスを用いた歯肉接合上皮組織の老化メカニズムの解明
	歯周病学分野	講師	相澤 怜	1,300,000	歯肉接合上皮の歯周組織防御機構にCdc42が果たす役割の解明
		講師	小出 容子	800,000	プレコンセプションケアでの口腔管理の必要性を不育早産FGR患者細菌叢から検証する
		助教	菅野 真莉加	900,000	ファイトケミカル・スルフォラファンによる口腔細菌叢dysbiosisの改善

研究種目	分野	職名	研究者名	内定額 (円)	研究課題名
歯科補綴学分野		准教授	高場 雅之	1,000,000	振動刺激型スプリントによる睡眠時ブラキシズム抑制効果の長期持続性の検討
		准教授	田中 晋平	1,200,000	デジタル印象の精度向上補助デバイスの製品化に向けたin vivoにおける検証
		講師	安部 友佳	1,400,000	睡眠時ブラキシズム患者特異的な神経生理学的機能変化の検証
		講師	三田 稔	500,000	機械学習を用いた口腔機能検査と口腔関連QoLの相関アルゴリズムの構築
		助教	松本 貴志	1,700,000	睡眠時ブラキシズム発症メカニズム解明に向けた疾患特異IPS細胞を用いた基盤研究
		兼任講師	浦野 絵里	1,700,000	神経堤由来幹細胞を用いたバイオハイブリットジルコニアインプラントの開発
		兼任講師	横山 紗和子	1,000,000	可撤性義歯装着者における栄養状態に対する補綴治療と食事指導の関連性の検討
顎顔面口腔外科学分野		教授	大場 誠悟	500,000	高機能細胞 (E-MNC) 由来エクソソームによる放射線性顎骨壊死の新規治療法の開発
		講師	佐藤 仁	1,300,000	神経障害性疼痛におけるアンギオテンシンⅡ受容体の関与
		講師	棕代 義樹	700,000	口腔扁平上皮癌細胞における低酸素抵抗因子としてのスプラバシンの役割の検索
歯科矯正学分野		教授	中納 治久	400,000	アライナー型矯正装置が発生する矯正力の生体力学的研究
		准教授	芳賀 秀郷	500,000	超音波診断装置から得た口腔周囲筋性質に関連する不正咬合の機能的診断法の創出
口腔病理学分野		助教	行森 茜	1,800,000	Foxc1によるFgfr2発現機構の解明
	歯科放射線医学分野	特任教授	荒木 和之	600,000	敵対的生成ネットワークと説明可能AIの組合せによるパノラマX線画像の自動診断の検討
インプラント歯科学分野		教授	宗像 源博	1,100,000	インプラント体内部へのMicroleakageの機序解明によるインプラント周囲炎予防法の確立
		講師	山口 菊江	1,100,000	予知性の高いサイナスリフトのプロトコールの確立
小児成育歯科学分野		准教授	浅川 剛吉	1,200,000	Down症候群歯根膜由来細胞における血管新生機構の解明
		講師	杉山 智美	400,000	医療面接における客観的評価方法の開発 ―音響分析を用いた評価について―
		助教	新田 雅一	1,600,000	新規素材を応用したスポーツマウスガードのメンテナンスシステムの開発
口腔機能管理学分野		教授	古屋 純一	700,000	要介護高齢者の舌機能低下を代償する有床義歯形態のデジタル技術を用いた解明
		准教授	鈴木 啓之	1,400,000	口腔機能検査に基づいた回復期病院入院患者を歯科につなぐ定量的なカットオフ値の解明
口腔機能リハビリテーション医学分野		准教授	伊原 良明	100,000	口腔機能による閉塞性睡眠時無呼吸症候群のスクリーニング、筋機能訓練の効果の検討
		助教	那小屋 公太	1,200,000	口腔機能に関わる島皮質の役割の解明
歯科麻酔科学分野		教授	増田 陸雄	1,000,000	抗血栓療法患者の抜歯時における血液粘弾性分析装置を用いた止血モニタリング法の確立
医科歯科連携診療歯科学分野		准教授	秋月 文子	1,300,000	唇顎口蓋裂群の顎顔面形態の解析とポリゴン表の開発
歯学教育学分野		兼任講師	鯨岡 聡子	900,000	唾液腺腫瘍における腫瘍性筋上皮細胞の新規マーカーの開発
		講師	井上 知	700,000	長骨骨幹端の修復過程における炎症動態の解明
口腔解剖学分野		助教	藤川 芳織	1,000,000	歯周炎モデルにおける接合上皮修復機構の解析
口腔生理学分野		助教	塩辻 昌典	1,300,000	セロトニン神経系に着目した、咀嚼運動を制御する神経回路の解明
口腔生化学分野		助教	安藤 雄太郎	1,600,000	RANKLシグナルによる血管石灰化制御機構の解明
歯科薬理学分野		助教	畔津 佑季	2,400,000	骨の修復メカニズムにおけるFKBP5の機能解析
歯科理工学分野		助教	周 君	1,000,000	Amelioration of temporomandibular joint osteoarthritis with Wwp2 message RNA therapy
口腔衛生学分野		兼任講師	山口 知子	1,300,000	障がい児の摂食嚥下指導の包括的なオンライン相談事業の構築と評価
		助教	池田 めぐみ	2,000,000	根尖性歯周炎が骨吸収抑制薬の全身的な作用をコントロールする機序の解明
歯内治療学分野		助教	片山 卓也	600,000	歯科用実体顕微鏡とXR技術を用いた歯内治療における新たな拡大装置の開発
		助教 (歯科)	三木 優	1,600,000	Enterococcusの菌体外多糖産生が根尖性歯周炎難治化に及ぼす影響の解明
歯科補綴学分野		助教	大澤 昂史	700,000	Ce-TZP/Al2O3インプラントにおける軟組織封鎖性の検証
		助教	岩内 洋太郎	2,100,000	顔貌と歯列三次元形態データ統合のワークフローと臨床応用法の確立
		助教	前嶋 康平	1,000,000	スプリントのガイダンスの違いは睡眠時ブラキシズム患者の筋活動量に影響を与えるか？
		兼任講師	青木 理紗	300,000	オクルーザルスプリント型診断装置による新たな睡眠時ブラキシズム診断の有用性の検証

研究種目	分野	職名	研究者名	内定額 (円)	研究課題名
	歯科補綴学分野	兼任講師	楠本 友里子	1,600,000	無歯顎者への補綴治療と食事指導による栄養状態の変化についてのランダム化比較試験
		兼任講師	柁 澤那	900,000	フェイススキャン応用によるCAD/CAMの精度向上と臨床応用戦略の研究
	顎関節症治療学分野	兼任講師	佐藤 多美代	400,000	覚醒時ブラキシズムの発生と脳血流酸素動態の関係
顎顔面口腔外科学分野		兼任講師	稲田 大佳暢	900,000	シュワン細胞調節性オートファジーが末梢神経損傷後の神経再生に与える影響の解明
		兼任講師	高松 弘貴	500,000	シェーグレン症候群患者へ対する新規治療方法の開発
		兼任講師	栗原 舞	500,000	口腔扁平上皮癌細胞の抗癌剤耐性に関するTPD52ファミリーの役割の検索
		兼任講師	橋原 峻	800,000	マイクログラフトを応用した顎部郭清術後瘢痕拘縮に対して治療法の開発
口腔腫瘍外科学分野		講師	安部 勇蔵	700,000	低酸素・低栄養状態の口腔扁平上皮癌細胞におけるTPD52の機能解明
若手研究	歯科矯正学分野	講師	瀧澤 秀臣	1,100,000	Down症候群小児における顎関節形態と流体力学解析による鼻咽頭気道狭窄の相関解明
		助教	小山 栞	1,400,000	除脳ラット動脈灌流標本を用いた嚥下を形成する神経回路の発達機構の解明
		助教 (歯科)	赤塚 加奈子	2,100,000	超音波診断装置を用いた成長期における口腔機能評価の定量化の探索
		兼任講師	鬼丸 美菜子	1,300,000	機能的顎矯正装置により発生する荷重ベクトル計測システムの確立
口腔機能管理学分野		助教 (歯科)	山根 邦仁	1,500,000	新規開発された口腔乾燥症用義歯安定剤使用下の口蓋床の維持力の評価
		兼任講師	渡辺 昌崇	700,000	ICTを活用したオンライン口腔健康状態評価法の確立
口腔機能リハビリテーション医学分野		助教	石黒 光哲	1,000,000	摂食亢進を起こすオレキシンの嚥下機能への影響とその神経回路の解析
		兼任講師	小池 丈司	100,000	頭頸部がん治療後の口腔乾燥に対する新規治療法の確立
歯科麻酔科学分野		助教	梶原 里紗	1,600,000	最後野に存在するPhox2b陽性ニューロンの術後悪心嘔吐への機能的役割の解明
		助教	西田 梨恵	1,200,000	超薄型圧力センサシートは歯科鎮静時の気道閉塞を早期発見できるか
		講師	松井 庄平	300,000	口腔内細菌叢ディスバイオーシスが認知症に及ぼす影響の解明
医科歯科連携診療歯科学分野		助教	菊池 真理子	1,200,000	ストレス誘導性口腔内細菌叢のバランス異常に対する唾液メラトニンの影響の解明
障害者歯科学分野		講師	嘉手納 未季	1,000,000	自閉症患者への新しい行動変容法の開発 ―ARの応用によるトークンエコノミー―
研究活動 スタート支援	歯内治療学分野	助教 (歯科)	大竹 開	1,400,000	骨欠損修復促進因子の同定とその機能解明
	歯科補綴学分野	助教	前嶋 康平	1,400,000	睡眠時ブラキシズムに対する振動刺激を用いた応答性に関連する患者特性の同定
	口腔病理学分野	助教	大沼 慎太郎	1,100,000	唾液腺オルガノイドの生着を促進する組織特異的スキャフォールドの開発
特別研究員 奨励費	口腔生化学分野	兼任講師	中村 和貴	600,000	オルガノイド生物学と骨免疫学の融合による唾液腺悪性腫瘍の理解と制御
	顎顔面口腔外科学分野	大学院生	根岸 宗一郎	1,000,000	Prg4を標的とした変形性顎関節症治療基盤の確立
	医科歯科連携診療歯科学分野	大学院生	高橋 夏大	800,000	重力変化が硬組織に与える作用機序の解明

薬学研究科

研究種目	分野	職名	研究者名	内定額 (円)	研究課題名
基盤研究 (B)	製剤設計学分野	教授	勝見 英正	5,400,000	腎臓標的型生理活性ペプチドによるレドックス制御を介した難治性腎臓疾患治療法の開発
		教授	合田 浩明	600,000	量子化学計算に基づいたリガンド結合部位の分子相互作用場算出法の開発
	生物物理化学分野	講師	早川 大地	400,000	非典型相互作用を記述する3次元関数の算出とin silico SBDD/FBDD技術への応用
		准教授	小濱 孝士	1,200,000	血管内皮細胞機能に及ぼす好中球細胞外トラップとリポタンパク質の影響
	生物化学分野	講師	牧山 智彦	1,100,000	NEK2Aによる脂質代謝を介したがん細胞の特質変化制御機構の解明
		教授	沼澤 聡	900,000	薬物中毒治療に活用可能な過量投与時のトキシコキネティクス情報の集約への応用
基盤研究 (C)	毒物学分野	准教授	芦野 隆	1,200,000	NAFLD/NASH克服を指向した酸化ストレス応答系による肝線維化抑制機能の解明
		准教授	光本 明日香 (貝嶋)	1,200,000	ADHD治療薬のDOHaD影響 ―エビジェネティクス作用と発達障害―
	薬理学分野	准教授	柴田 佳太	700,000	真菌由来天然物を用いた糖尿病性腎症の新たな治療戦略の構築
	薬物動態学分野	講師	田島 正教	500,000	運動誘導性摂食抑制物質の経口製剤化へ向けた基礎研究
衛生薬学分野		客員教授	姫野 誠一郎	1,100,000	ヒ素の血管毒性および筋肉毒性の機構解明
		准教授	桑田 浩	1,100,000	多価不飽和脂肪酸代謝酵素ACSL4の欠損による雌性不妊機構の解明
		講師	依田 恵美子	1,000,000	雌性生殖を制御する膜リン脂質代謝酵素の機能解析
		講師	佐々木 由香	1,100,000	プロスタサイクリン合成酵素の乳がんにおける役割の解析
薬剤疫学分野		教授 (員外)	今井 志乃ぶ	1,400,000	大規模医療データを活用した医薬品有害事象の可視化のためのバリデーション研究

研究種目	分野	職名	研究者名	内定額（円）	研究課題名
基盤研究（C）	薬物治療学分野	教授	向後 麻里	800,000	医療ビッグデータを活用した心不全患者の新規心不全治療薬併用療法の治療指針の開発
	臨床栄養代謝学分野	准教授	唐沢 浩二	500,000	プレバイオティクス含有栄養剤と医薬品の相互作用の解明
	臨床研究分野	准教授	百 賢二	600,000	化学療法・放射線療法誘発性の重篤な口腔粘膜炎の疼痛緩和を目指した局所製剤の開発
挑戦的研究（萌芽）	製剤設計学分野	教授	勝見 英正	1,600,000	生体内ガス状分子のクロストークによる慢性腎臓病治療を実現する腎臓標的型DDS開発
若手研究	生体分析化学分野	講師	松林 智子	600,000	簡便な生薬成分分析による品質管理法の確立 -TLC-MS、蛍光指紋測定法を用いて-
	生物物理化学分野	助教	渡邊 友里江（小田）	200,000	新規慢性疼痛治療薬開発のための、PAC1Rを標的としたin silico創薬
	腫瘍細胞生物学分野	助教	中川 英嗣	1,400,000	癌転移抑制薬創製を目指したTAZ-DEPTORによるanoikis制御機構の解析
	生理学分野	助教	中野 僚太	1,000,000	関節リウマチ合併妊娠が誘導する次世代のADHD発症のメカニズム解析
	薬剤疫学分野	講師	池谷 怜	1,300,000	かかりつけ薬剤師制度のアウトカム評価および経済評価エビデンスの創出
		助教	谷 拓朗	1,200,000	機械学習を活用した因果推論モデルによる効果的なりハビリテーション提供に関する分析
	薬物治療学分野	講師	里 美貴（竹中）	2,200,000	組織内オシメルチニブ代謝物濃度に基づく有害事象の要因解明と予後予測モデルの構築
	感染制御薬学分野	准教授	前田 真之	300,000	抗菌薬使用メトリクスを用いた薬剤耐性の発生予測モデルの構築
	がんゲノム医療薬学分野	兼任講師	半田 智子	600,000	アプリを用いた免疫チェックポイント阻害薬治療中のがん患者の副作用管理
	臨床研究開発学分野	教授（員外）	肥田 典子	（※1） 0	川崎病患児へのアスピリンミナプレットの適応 ～ミナプレットの実用化を目指して
		講師	滝 伊織（竹本）	100,000	とろみ調整食品が及ぼす直接経口抗凝固薬の薬理学的影響
		普通研究生	青木 はな子	2,000,000	環境中化学物質に対する共生細菌硫酸代謝物による生体防御機構の解明
		講師	詫間 章俊	1,000,000	集中治療室における抗菌薬適正使用支援プログラム実践手法の構築と人的資源の検討
		助教	石井 俊一	1,600,000	ビノレルピンにより引き起こされる血管炎及び血管痛の予防方法の確立
	病院薬剤学分野	助教	永尾 美智瑠	400,000	プレガバリン経皮吸収剤の安定性・安全性の確立
		助教	三井 奈緒	300,000	PHの変動が半固形化栄養法の粘性と下痢抑制効果に及ぼす影響の解明
		助教	磯部 順哉	400,000	食道がん周術期における免疫疲弊とディスバイオーシスが免疫療法に与える影響
		助教	守屋 賀奈絵	800,000	抗菌薬の不適正使用から子どもを守る 一疫学・実学・フィールドワーク融合型研究ー
		助教	高橋 伸幸	1,400,000	C. difficile感染を臨床指標とした慢性腎不全進行予測モデルの構築と検証
		兼任講師	市村 丈典	200,000	リアルワールドデータに基づく切除不能・進行再発非小細胞肺がん治療薬の費用効用分析
研究活動 スタート支援	生体分析化学分野	普通研究生	丸山 真一	1,100,000	経口分子標的薬の血中濃度測定法の確立と個別化治療の実現
	腫瘍細胞生物学分野	助教	中川 英嗣	1,100,000	癌転移阻止を目指したTAZによるanoikis抵抗性制御機構の解明

※1：前倒し支払請求に伴い、本年度分の研究費は前年度に受領済のため入金無し

次号（Feb. 2026）では、保健医療学研究科と富士吉田教育部、研究所等の一覧を掲載する。

令和7年度秋季・令和8年度春季Ⅰ期
大学院入学試験結果

研究科	試験区分	日程	募集人員	志願者数	合格者数
医学研究科	秋季	2025年 8月16日	若干名	20	20
	春季Ⅰ期		60	17	16
歯学研究科	秋季	2025年 8月16日	若干名	4	4
	春季Ⅰ期		22	8	8
薬学研究科	秋季	2025年 8月23日	若干名	4	3
	春季Ⅰ期		15	15	14
保健医療 研究科	博士 前期課程	2025年 8月23日	若干名	11	7
	博士 後期課程		若干名	1	1
合計			-	80	73

令和8年度
助産学専攻科入学試験結果

日程	募集人員	志願者数	合格者数
2025年9月27日	15	98	15

修了生・新入生一覧	昭和医科大学大学院
-----------	-----------

令和7年度秋季修了生	令和7年度秋季新入生
------------	------------

医学研究科	13名
-------	-----

甘利 泰伸・井藤 遥・正路 大樹・関本 篤人・曾根 浩元・鶴井 敏光・成川 陽一郎・能條 真・花輪 洋一・松川 直樹・丸山 祐樹・宮村 知弥・渡邊 真

歯学研究科	3名
-------	----

糸川 拓臣・趙 柏欽・前村 美希

薬学研究科	4名
-------	----

青木 彩華・金森 捷太・庄司 稜涼・渡邊 一史

保健医療学研究科前期課程	9名
--------------	----

伊藤 由輝・植松 正・内山 匠・篠崎 千早・荘司 学・永井 健太郎・平田 千晶・山崎 太輝・渡邊 大貴

保健医療学研究科後期課程	2名
--------------	----

鈴木 加奈子・大良 実

夏季スポーツ大会競技結果

8月に実施された第68回東日本医科学生総合体育大会と第57回全日本歯科学生総合体育大会の8位までの入賞は次のとおり。

第68回東日本医科学生総合体育大会

競技種目	競技結果（団体・個人・総合）
準硬式野球男子	優勝 全医体出場
軟式庭球女子団体	第8位
バスケットボール男子	第3位 （医学部3年 石井 大介）
バレーボール男子	ベストセッター賞（医学部4年 康野 瑛嗣）
バレーボール団体	第4位 全医体出場
ハンドボール団体	第6位
卓球部団体	（医学部5年 境 大翔、3年 河本 輝、富田 慎之介、2年 小山内 伶、大倉 凛久） ベスト8

第57回全日本歯科学生総合体育大会

競技種目	競技結果（団体・個人・総合）
サッカー	優勝
バレーボール男子	ベストセッター賞（歯学部4年 片岡 隆斗）
バレーボール団体	準優勝
水泳女子400mフリーリレー	第1位 （歯学部3年 數根 千乃、渡邊 多奏音、2年 山本 有里彩、1年 廣島 あつこ）
水泳女子200mフリーリレー	第2位 （歯学部3年 數根 千乃、2年 山本 有里彩、1年 鄭 佳芸、廣島 あつこ）
水泳女子200mメドレーリレー	第4位 （歯学部3年 志水 海那美、數根 千乃、渡邊 多奏音、千野 愛莉）
水泳男子400m自由形	第3位 （歯学部6年 華岡 修大）
水泳男子100m自由形	第1位 （歯学部1年 石田 優）
水泳男子50m自由形	第2位 （歯学部1年 石田 優）
水泳女子50m平泳ぎ	第2位 （歯学部3年 數根 千乃）

競技種目	競技結果（団体・個人・総合）
剣道男子個人	第3位 （医学部6年 藤田 鉄平）
陸上 女子100m	第3位 （医学部4年 清水 優希）
サッカー	得点王 （医学部3年 小倉 拓海）
馬術部 ジムカーナ個人	第3位 （医学部1年 福渡 凜）
馬術部 ジムカーナ個人	第4位 （医学部1年 中田 結子）
馬術部 団体総合	（医学部2年 池谷 優雅、小林 奈央、1年 中田 結子、福渡 凜、森 絢大） 第6位

競技種目	競技結果（団体・個人・総合）
水泳女子100m平泳ぎ	第2位 （歯学部3年 數根 千乃）
水泳女子50m自由形	第3位 （歯学部2年 山本 有里彩）
水泳女子100m自由形	第3位 （歯学部2年 山本 有里彩）
水泳女子50m平泳ぎ	第1位 （歯学部1年 廣島 あつこ）
水泳女子100m平泳ぎ	第1位 （歯学部1年 廣島 あつこ）
水泳男女団体総合	第4位
水泳男子団体総合	第8位
水泳女子団体総合	第3位
馬術部 団体総合	優勝 （歯学部4年 岩崎 賢志朗、北山 天啓、堀 希希）
バドミントン男子ダブルス	ベスト8 （歯学部6年 池上 和輝、4年 吉野 達郎）
バドミントン女子ダブルス	優勝 （歯学部4年 五十嵐 舞、大野 華穂）

競技種目	競技結果（団体・個人・総合）
水泳男子200m平泳ぎ	第3位 （医学部4年 山田 豊志大）
水泳男子100m平泳ぎ	第6位 （医学部4年 山田 豊志大）
水泳男子800m自由形	第4位 （医学部2年 丸一 叶人）
水泳男子400m自由形	第8位 （医学部2年 丸一 叶人）
陸上男子200m	第6位 （医学部5年 田村 凜太郎）
陸上男子400m	第6位 （医学部5年 田村 凜太郎）
陸上女子100m	第3位 （医学部4年 清水 優希）
陸上女子200m	第4位 （医学部4年 清水 優希）

競技種目	競技結果（団体・個人・総合）
バドミントン女子シングルス	準優勝 （歯学部4年 大野 華穂）
バドミントン女子団体	優勝
バドミントン男女総合	第4位
剣道男子個人	第8位 （歯学部3年 高島 大輝）
剣道女子団体	優勝
陸上男子100m	第1位 （歯学部5年 宮定 太一）
陸上男子200m	第2位 （歯学部5年 宮定 太一）
陸上男子円盤投	第5位 （歯学部5年 小林 俊）
陸上女子800m	第1位 （歯学部1年 比嘉 紗良）
陸上女子1500m	第1位 （歯学部1年 比嘉 紗良）
ゴルフ男子団体	第7位
ゴルフ女子団体	第7位
ゴルフ男女総合	第5位

学内会議報告



就任のお知らせ（8月5日 理事会承認）

医学部外科学講座（呼吸器外科学部門）担当 教授
昭和医科大学病院呼吸器外科診療科長
〔勤務地：昭和医科大学病院呼吸器外科〕



小林 正嗣

倉敷中央病院呼吸器外科 主任部長
任命日：令和7年11月17日

保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 教授



神谷 和孝

保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻
客員教授
任命日：令和7年8月5日

就任のお知らせ（9月9日 理事会承認）

医学部生理学講座（生体調節機能学部門）担当 教授（員外）



政岡 ゆり

医学部生理学講座（生体調節機能学部門）担当 准教授
任命日：令和7年9月9日

医学部集中治療医学講座担当 教授（員外）
〔勤務地：藤が丘病院集中治療科〕



佐藤 督忠

医学部集中治療医学講座担当 准教授
〔勤務地：藤が丘病院集中治療科〕
任命日：令和7年9月9日

藤が丘リハビリテーション病院外科系診療科診療科長



神崎 浩二

医学部整形外科講座担当 教授
〔勤務地：藤が丘病院外科系診療センター（整形外科）〕
任命日：令和7年9月9日

学務関係

◆「昭和医科大学学則」改正

【改正趣旨】医学部医学科の入学定員および収容定員について、令和8年度の地域枠による入学定員の増加に対応するため。（長野県地域枠2名を追加）

理事会関係

◆名誉教授称号授与

福地 邦彦 客員教授（医学部臨床病理診断学講座担当）

【任命日】令和7年8月1日

◆昭和医科大学病院 病院組織図変更

【変更点】中央診療部門に「三叉神経・顔面痙攣総合センター」を設置する。

【変更の目的】センター設置により、診療科間の連携による三叉神経痛、顔面痙攣の早期確定診断及び的確な治療の推進と異なる症例数の増加を見込むため。

【変更日】令和7年9月1日

◆株式会社ホープスの実施補償金の支払いについて

【対象の発明】①医療用姿勢保持用具（伏臥位用）
（意匠第1481302号）

②医療用姿勢保持用具（脳外科用）
（意匠第1485455号）

③頭部支持用具（特願2014-204905）

【本学発明者】医学研究科整形外科学分野 客員教授 神 與市
元認定看護師教育センター 石橋 まゆみ

【実施料収入】24,889円

【入 金 日】令和7年5月30日

【実施補償金配分（割合）】大 学：14,933円（60%）
発明者：9,956円（40%）

◆株式会社ティムスの実施補償金の支払いについて

【対象の発明】細胞保護剤（特願2011-521836）

【本学発明者】薬学研究科薬理学分野 客員教授 本田 一男
薬学研究科薬理学分野 兼任講師 橋本 光正

薬学研究科薬理学分野 准教授 柴田 佳太

【実施料収入】5,928,991円

【入 金 日】令和7年5月29日

【実施補償金配分（割合）】大 学：3,557,395円（60%）
発明者：2,371,596円（40%）

◆令和6年度私立大学等経常費補助金の確定について

【確定額】5,739,552千円

内 訳 一般補助 5,500,843千円

特別補助 238,709千円

i Information

詳細・更新情報は各部署へお問い合わせください。

上 條 記 念 ミ ュ ー ジ ャ ム

【校名変更記念】企画展 「旧昭和医科大学の頃」開催中！

本学の校名変更を記念して、第7回企画展「旧昭和医科大学の頃～戦後の制度改革を乗り越えた大学の発展史～」を開催中です。本展では、旧昭和医科大学時代（昭和21～39年・1946～1964年）に焦点をあて、大学設立に関する行政文書や大学施設増築に関わる図面などを展示し、専門学校から大学へと旗の台地域とともに発展してきた歴史を紹介しています。皆さまのご来館を心よりお待ちしております。

【開館】

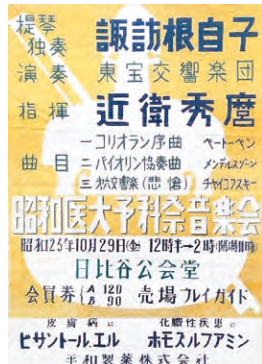
火曜日・金曜日

13:00～15:00（予約制）

【開催期間】

2025年10月3日（金）～

2026年6月30日（火）



いつも探しています！大学や病院の歴史資料

皆さまのご自宅や勤務先に、昭和医科大学の歴史に関する資料はございませんか。

資料は「上條記念ミュージアム」にて大切に保管・展示をさせていただきます。

これらの品々は「至誠一貫」の精神で歩んできた95余年に及ぶ昭和医科大学の歴史を後世に伝える貴重な資料となる可能性があります。皆さまからのご連絡をお待ちしております。



お問い合わせ 昭和医科大学上條記念ミュージアム

電話：03-3784-8031

メール：museum@ofc.showa-u.ac.jp



リカレントカレッジ事務局

昭和医科大学リカレントカレッジ 秋期プログラム開講

9月27日より、リカレントカレッジ秋期プログラムが開講しました。学歴や年齢を問わず、多くの方がリカレントカレッジという新たな学びの場で共に学んでいます。また、オンライン講座、対面とオンラインを併用したハイブリッド型講座では、全国各地から受講生にご参加いただいています。引き続き申込受付中の講座もございますので、ぜひお申し込みください。

昭和医科大学リカレントカレッジ 特別企画（冬）開催

この度、2025年度昭和医科大学リカレントカレッジ特別企画（冬）として、公演会を開催する運びとなりました。今回は、デビュー20周年を超え、なお精力的に活動するジャズ・シンガーの綾戸 智恵（あやどちえ）さんをお招きし、力強い歌声とピアノ、軽妙なトークをお届けします。ぜひお問い合わせの上ご参加ください。



綾戸 智恵さん（ジャズ・シンガー）

【内容】「綾戸 智恵 DO JAZZ LIVE ～人生に学びと音楽を～」

【日時】2026年1月17日（土）14:00～（開場：13:30～）

【会場】昭和医科大学上條記念館 上條ホール

【一般チケット販売】

料金 3,000円（全席指定）

窓口 きゅりあん、スクエア荏原、メイプルカルチャーセンター、
O美術館

電話 03-5479-4140

…チケットセンター-CURIA ※電話予約は座席選択不可

Web <https://www.shinagawa-culture.or.jp/>

…「しながわぶんか」で検索

リカレントカレッジでは講師を募集しています。同窓生も講師として活躍中です。

お問い合わせ 昭和医科大学リカレントカレッジ事務局

電話：03-3784-8143

メール：recurrent@ofc.showa-u.ac.jp



総務部

昭和医科大学サポート寄付制度にご協力いただいた方

【創立100周年記念事業募金】

同窓／栗原 正明 様（医学部・32回生）、斎藤 克之 様（医学部・34回生）、橋本 博介 様（医学部・41回生）、大道 和宏 様（医学部・50回生）、村上 厚文 様（医学部・51回生）、伊藤 勇 様（医学部・64回生）、日吉東急鈴木眼科 様、新綱島鈴木眼科 様、武蔵境鈴木眼科 様（医学部・64回生）、横山 多恵 様（歯学部・19回生）、横山 祐紀 様（歯学部・20回生）、鈴木 智子 様（歯学部41回生）

職員（50音順）／早田 光孝 様、早田 輝子 様

一般／株式会社栄美通信 様、株式会社環境技研 様、株式会社コンピュータムーブ 様、株式会社ジェイエスピー 様、株式会社セーフマスター 様、株式会社ニシテック 様、株式会社文化放送キャリアパートナーズ 様、株式会社リジョイスカンパニー 様、蒲田中央電業株式会社 様、太陽スポーツ施設株式会社 様、日本メディカル・ウェスト・マネジメント株式会社 様、野中熱工株式会社 様、ハクゾウメディカル株式会社 様

【医学部への寄付】

職員／市川 博雄 様

【昭和医科大学病院への寄付】

一般／川畑 温奈 様、井出 智恵 様

【昭和医科大学江東豊洲病院への寄付】

職員／小菅 正太郎 様

※収納期間：2025年8月1日～9月30日

※本学広報媒体への掲載に同意していただいた方のみといたします

お詫びと訂正

2025年10月号（第627号）のP28に掲載しました「Information」において、会社名に誤りがありました。

正しくは以下の通りです。ここにお詫びして訂正いたします。

昭和医科大学サポート寄付制度にご協力いただいた方

【創立100周年記念事業募金への寄付】

株式会社リイツメディカル 様

今号の表紙写真

表紙は10月11日・12日に開催した旗ヶ岡祭から。

今年のスローガン「暁光」には、夜明けに差し込む光という意味が込められており、新たな校名のもとで歩みを始めた本学の姿を象徴しています。期間中にはホームカミングデーも開催され、卒業生の皆様が母校を懐かしむ姿が見られました。秋の一大イベントを終えたキャンパスは、11月15日の創立記念日を迎え、ひと息ついたところです。今後も、創立100周年に向けて歩を進める本学の様子を、引き続きお伝えしてまいります。



SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS

昭和医科大学新聞 通巻第628号

vol. 19

December 2025 令和7年12月1日発行

[年6回発行]



学校法人 昭和医科大学

(03) 3784-8000

〒142-8555

東京都品川区旗の台1-5-8

【本誌について】

発行人 小口 勝司

編集 総務課 大学広報係

(03) 3784-8059

press@ofc.showa-u.ac.jp

ご意見やご感想、各種情報をお待ちしています。

制作・印刷 株式会社ダイヤモンド・グラフィック社

配送停止

住所変更

の登録は、

こちらにお願

いいたします。

【各種募金・寄付について】

企画課 (03) 3784-8387

【学事について】

学務課 (03) 3784-8022 (旗の台)

(0555) 22-4403 (富士吉田)

(045) 985-6503 (横浜)

大学院課 (03) 3784-8793

入学支援課 (03) 3784-8026

! 個人情報の取扱いにご注意ください

昭和医科大学新聞には、学生・職員および学外関係者の氏名や所属等を掲載している場合があります。掲載に際しては、学校法人昭和医科大学が個人情報を広報活動に利用することについて説明し、同意していただいております。原則として、その他の目的に個人情報を利用することはできませんので、取扱いにはご注意ください。